

# 日系リサイクル企業の海外 での課題

株式会社 リーテム  
中島 賢一

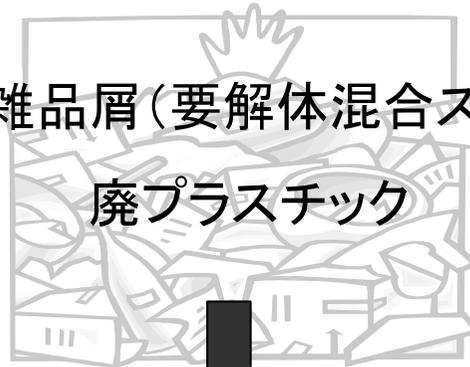


# 1. 国際資源循環（日中間のケース）の現状

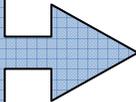
# 日中資源循環の現状

鉄屑、雑品屑(要解体混合スクラップ)

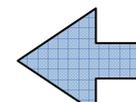
廃プラスチック



需要増による  
原料相場の高騰



輸出  
(多品種のものや不純物が混合)



処理コストが  
安価

中国

有用資源回収のリサイクルは行われている



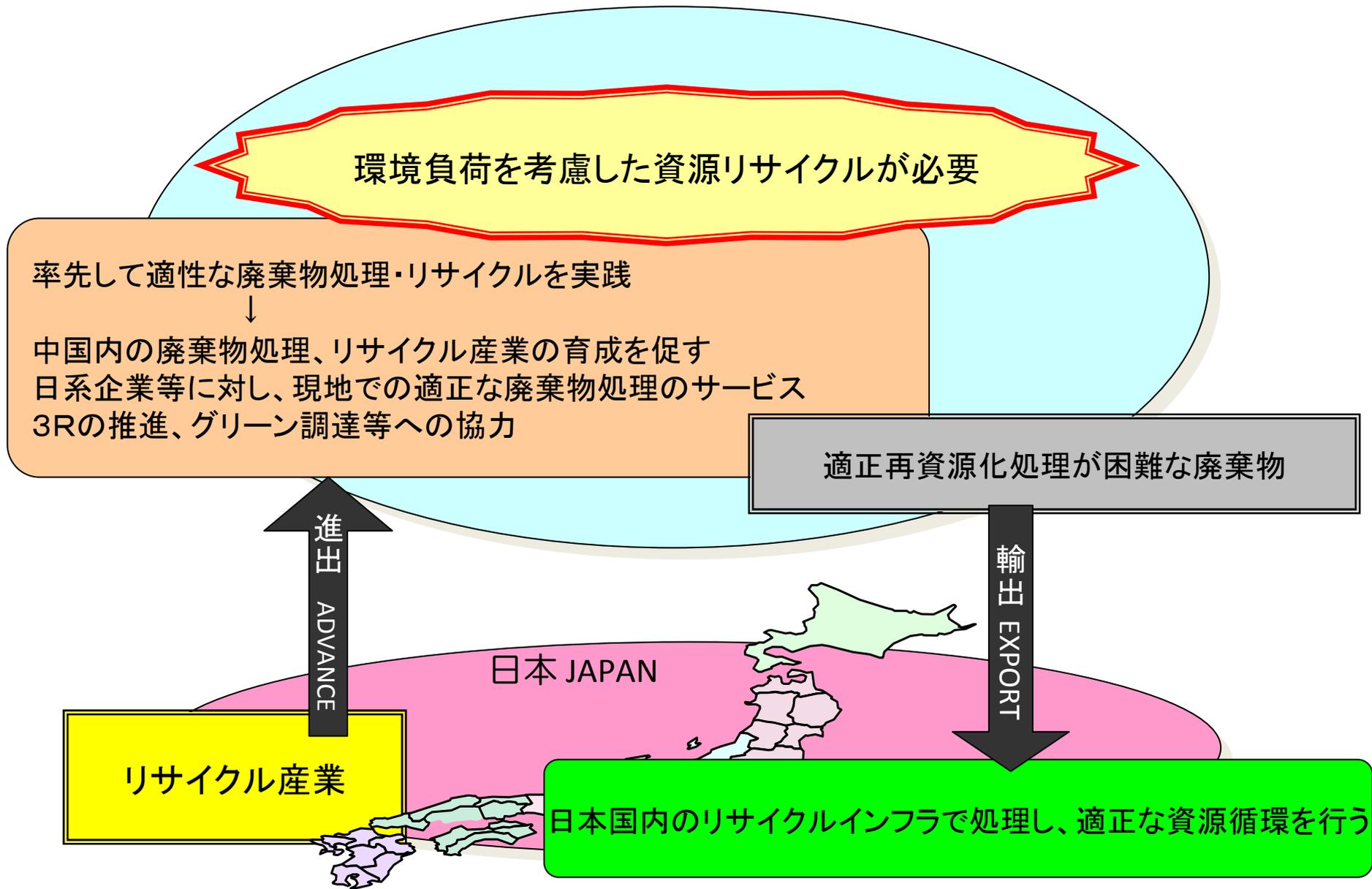
選別・解体後に発生する残渣については  
十分なインフラがないところで不適切な処理

リサイクルと環境汚染とが混在



# 中国における今後の日本のリサイクル産業の役割

## ROLE OF JAPANESE RECYCLE INDUSTRY IN CHINA

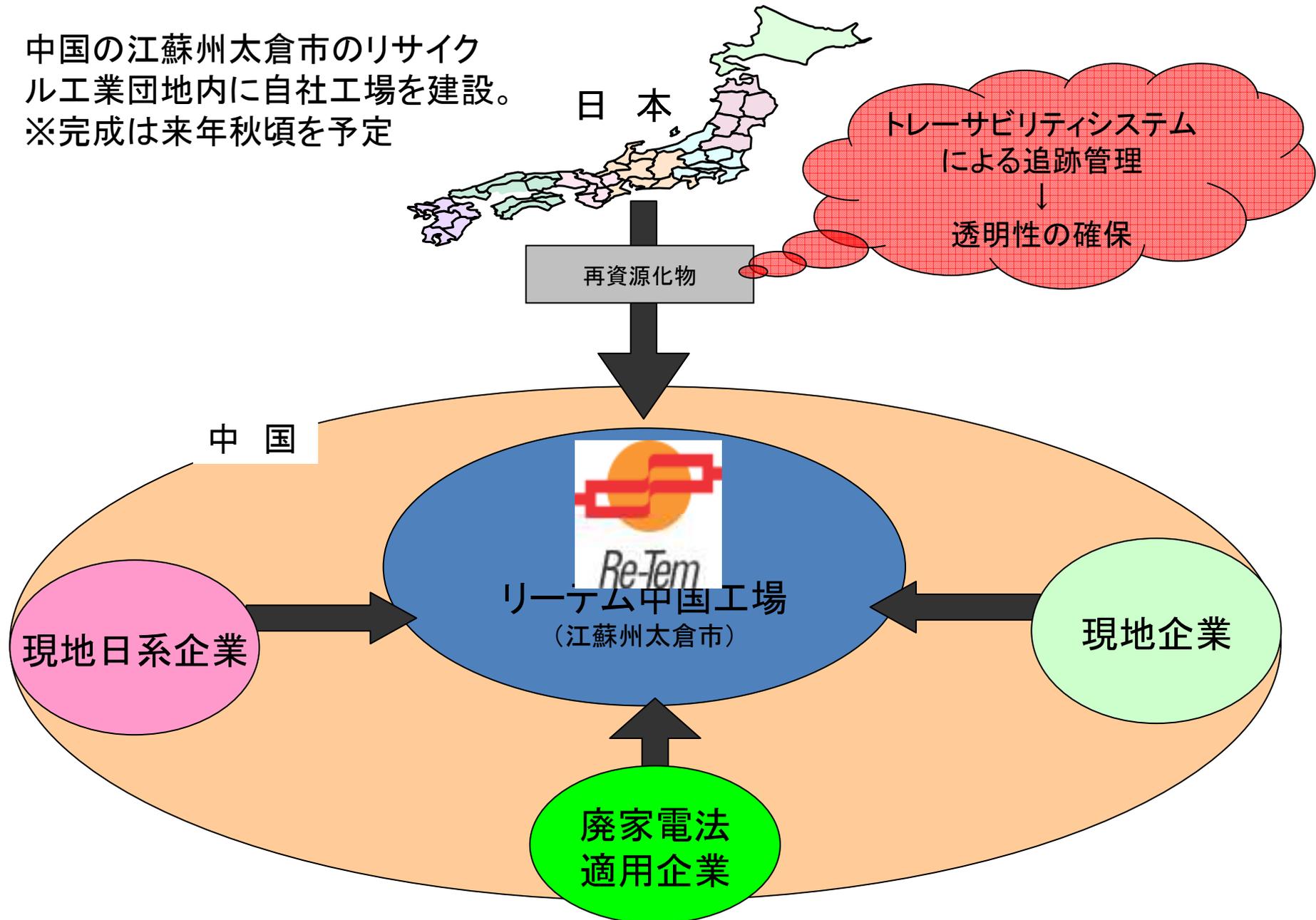




## 2. リーテム社の中国での取組み

# リーテム社の今後の中国における構想

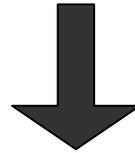
中国の江蘇州太倉市のリサイクル  
ル工業団地内に自社工場を建設。  
※完成は来年秋頃を予定



# 国際資源循環管理システムのコンセプト

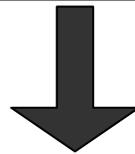
## 目的

- ①ゼロエミッション・環境対応型リサイクルフローの構築
- ②信頼性ある資源循環システムの構築



## 手段

- ①トレーサビリティシステムによる追跡管理（GPS、画像、重量、ICタグバーコード等）
- ②リアルタイムでの情報共有（ASP）



リサイクルフロー全体の透明性の確保

# 国際資源循環管理システムのモデルの提案

実証試験結果に基づき、技術的・中国国内でのリテラーの観点から、実現可能と考えられるモデルを提案する。

①二次処理先は多様なルートが想定されること  
②現地のシステム運用のリテラーが不十分であることから、当面は携帯電話による報告と伝票等による管理で代替するのが現実的である。

